

「水晶山登山研修」プログラム

国立江田島青少年交流の家

1 活動内容

標高90.3mの水晶山の山頂を目指して登山する。青少年交流の家から1時間程度で登り降りできる。途中から頂上まではロープを伝って登っていく。頂上付近では青少年交流の家やその周辺、瀬戸内海の景色を眺めることができる。

2 活動のねらい

グループで登山することで、自然に親しむとともに、仲間意識を高める。
協調性を高める。

3 対象者

小学校4年生以上

ただし、保護者又は責任の持てる引率者と組んで活動する場合は3年生以下でも可能。

4 研修人数

最大100人

5 実施時期、研修時間

(1) 実施時期 通年

(2) 研修時間 約1時間

午前 9時00分から12時00分の間

午後 13時30分から16時00分の間

(注) 自衛隊の訓練があるときは実施できない場合がある。この場合は、事前に交流の家から団体に連絡を入れる。

6 準備物

- (1) 個人：登山に適した服装、運動靴、飲み物、タオル、軍手等の手袋
- (2) 引率者：携帯電話
- (3) 団体：水晶山登山地図（交流の家ホームページからダウンロードできます）
- (4) 交流の家：携帯用救急バッグ（1個）、通行止め標識（1枚）、マムシの写真（1枚）、グラウンドトイレの鍵

7 指導・安全管理

(1) 指導者の配置・人数・役割分担

研修は、「水晶山登山研修」プログラムをもとに、団体が水晶山登山の指導・安全管理等を行う。

(2) 引率者の配置・人数・役割分担

活動団体で次の役割を持たせる。（小規模の団体は担当を兼ねられる）

- ①総括責任者（全体の総括、緊急時の連絡担当）・・・1名
- ②指導担当者（指導、先導、用具の準備、安全管理）・・・1名以上
- ③監視担当者（頂上手前急斜面での安全確認、安全管理）・・・2名以上

（配置場所については別紙「水晶山登山監視場所」参照）

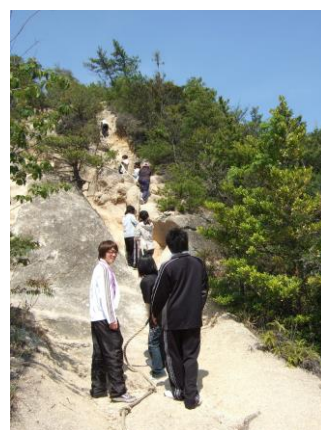
※ロープを使って登り降りする時、斜面の下に監視担当者を配置し、登り降りの様子を監視する。

- ④救護担当者（健康観察・応急処置）・・・1名以上

(3) 引率者はトランシーバーを使って連絡を取り合う。

(4) 事故発生時の措置

総括責任者は、事故状況を把握し、交流の家に携帯電話で連絡を行う。



8 展 開

(1) 「物品利用希望書」の提出

必要事項を記入し、総括責任者が入所時に交流の家へ提出する。

(2) 借用物品受け渡し

指導担当者は、交流の家から携帯用救急バッグ（1個）、通行止め標識（1枚）、マムシの写真（1枚）を受け取る。

(3) 事前指導

集合場所…つどいの広場

(指導担当者)

- ① つどいの広場に整列させる。
- ② 救護担当者に健康観察をさせる。
- ③ 出発前に必ずトイレを済ませておく。

(4) 指導担当者は目的、注意事項を説明する。

〈注意事項〉

- ① 山道は安全を考え真ん中を一列で歩く。
- ② 山道がない場所には行かない。
- ③ 通行止め標識があるところには行かない。
実際の通行止め標識を見せながら、立ち入り禁止場所の確認をする。
- ④ 自然を破壊しない。
※かぶれる木（ハゼ・ウルシ等）や有毒生物（マムシ・ムカデ・ハチ等）に注意！
マムシの写真を見せながら説明。
- ⑤ 林の中は火気厳禁。
- ⑥ 雨上がりは足元に十分気をつける。
- ⑦ 適宜休憩をとり、水分補給をする。
- ⑧ けが、体調が悪くなったら、引率者に連絡する。
- ⑨ 頂上手前からの登り、そこからの最初の下りは、急な斜面になっているので、ロープが設置してある。そのロープをうまく利用しながら、安全に配慮して、登り降りすること。

(6) 水晶山登山

- ① 1列になってスタートする。
- ② 緊急の場合はグラウンドトイレを使用する。

(7) 事後指導

- ① 汗を拭かせ、水分補給をさせる。
- ② 救護担当者に健康観察をさせる。
- ③ まとめをし、解散する。
- ④ 水晶山登山研修終了を交流の家へ報告するとともに、借用物品の返却をする。

(8) 連絡先

一般電話番号

国立江田島青少年交流の家 TEL 0823-42-0660

0823-42-0661



通行止め標識



ニホンマムシ